



優 秀 賞

豊洲三丁目3街区ランドスケープ (豊洲フロント、豊洲フォレシア、豊洲キュービックガーデン)

設計部門



豊洲三丁目3街区ランドスケープ全景 右から豊洲フロント、豊洲フォレシア、豊洲キュービックガーデン
撮影：FOTOTECA

「豊洲三丁目3街区ランドスケープ」は、石川島播磨重工業造船工場跡地を中心とした「豊洲2・3丁目地区再開発等促進区」の中央に位置する約300m×150mの整形な敷地を、3つの異なる事業スキームが連携し、まちづくりに取り組んだプロジェクトです。事業主体や設計者、工期が異なるため、始めに3街区が一体となって全体マスタープラン策定、全体基本設計を行うことで一体性のある空間を実現しました。

計画地は、地区の中心軸となる晴海通り、地区の生活軸となるけやき通りに面し、周囲にはオフィスビル・商業施設・集合住宅・大学があります。このような「職・住・学・遊」の機能が集結する豊洲において地域の回遊性を高め、多種多様な日常生活を彩るパブリックな空間の創出を目指しました。

晴海通り沿いは、3棟の建物外壁ラインを揃えたエリアのシンボルとなる「ビジネスコリドー」として整備しました。3街区を貫いて屋根付きの緑化パーゴラを整備すると同時に、街区全体で舗装材料やパターン・シマトネリコの本立・水景等の仕様や配置を揃えています。パーゴラの柱位置や高さ、緑化樹種に変化を与え、シェルターやアートによる滞留空間を点在させています。屋根付き緑化パーゴラは地下鉄連絡通路へ接続し、全天候で快適な歩行者空間を実現しています。

晴海通りと同様に3敷地を貫くけやき通りには、通りの名称にちなみケヤキを3街区全体に列植しています。集合住宅に面し大学へのアクセス路となることから、憩いのスポットとなるデッキを各街区がそれぞれ展開させ、日常的な賑わいを創出し

株式会社三菱地所設計

植田直樹・塚本敦彦・松榮宏幸・萩原麻衣子・
多田裕樹・国府田道夫・野村和宣・高橋洋介・
山田俊紀・梶隆之

清水建設株式会社 大西正修・鼻戸隆志

第一生命保険株式会社 梅垣春記

フィールドフォー・デザインオフィス 北島暢哉

設計組織プレイスメディア

宮城俊作・吉田新・霜田亮祐

作品概要

作品名—— 豊洲三丁目3街区ランドスケープ
(豊洲フロント、豊洲フォレシア、豊洲キュービックガーデン)

全体マスタープラン・全体基本設計

—— 株式会社三菱地所設計、清水建設株式会社、設計組織プレイスメディア

3街区全体敷地面積

—— 46,185.28㎡

主要施設—— 事務所、店舗

■豊洲フロント

発 注—— 株式会社IHI、豊洲3の1特定目的会社(開発業務受託者:三菱地所株式会社)

設 計—— 株式会社三菱地所設計、設計組織プレイスメディア

施 工—— 鹿島建設株式会社 施工期間:2008年12月~2010年 8月

■豊洲フォレシア

発 注—— 株式会社IHI、豊洲三丁目開発特定目的会社
(開発業務受託者:三菱地所株式会社)

設 計—— 株式会社三菱地所設計

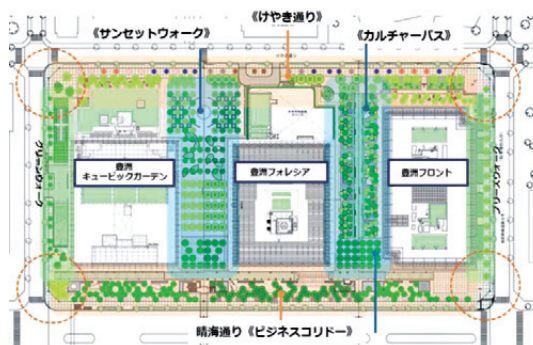
施 工—— 株式会社大林組 施工期間:2012年 8月~2014年 7月

■豊洲キュービックガーデン

発 注—— 第一生命保険株式会社

設 計—— 清水建設株式会社、梅垣春記(第一生命保険株式会社)

施 工—— 清水・前田・日本建設共同企業体 施工期間:2009年1月~2011年1月



①晴海通りビジネスコリドー※ ②産業遺構アート※ ③カルチャーパス※ ④晴海通りビジネスコリドー※ ⑤晴海通りビジネスコリドー※ ⑥カルチャーパス※ ⑦サンセットウォーク※ ⑧けやき通り※ ⑨けやき通り※ ⑩サンセットウォーク※ ⑪けやき通り・豊洲フォレシア壁面緑化※ (※)撮影:FOTOTECA

ています。特に豊洲フォレシアでは、建物低層棟を長さ 120m の壁面緑化で包み、さらに緑あふれる街路を演出しています。これらの晴海・けやき両通りでは豊洲地区で共通の歩道舗装パターンや隣接地と連携した高木樹種を敷地内に引き込み、官民境界を意識させない広がりのある歩行空間を形成しました。

街区間は、建物壁面を互いに 15 m ずつセットバックし、晴海通りとけやき通りをつないだ街の回遊性に貢献する歩行者空間です。両街区がシンメトリーなデザインを行うことで敷地境界を意識させない一体的な空間づくりをしています。ヒューマンスケールな緑の散策路「カルチャーパス」、広場が連続して展開する「サンセットウォーク」と個性ある空間づくりを行っています。

さらには街区全体で緑化率 40% 相当となる「身近な緑陰空間」を3つの事業で実現したことにより、埋立地に由来した豊洲に多様な日常を彩り、親しまれる緑豊かなオープンスペースを3つのプロジェクトが一体となって形成しています。

作品評

この作品は、ひとつの街区の中に建つ3つのオフィスビルの外構を統一的に整備した好例である。3つのビルは、それぞれ事業主体や設計者、施工時期が異なるため、通常は結果としてバラバラな形となる例が多い。本作品では、設計当初に関係事業者を集めて、全体マスタープランを作成し、共有できる設計方針を取りまとめたことが大きく評価できる。壁面後退幅を同様とし、デザインの方向性や場毎の演出方法を取りまとめて、共有化している。これにより、それぞれのビルの竣工時期に4年の差が生じても統一的な整備が出来たものと考えられる。

埋立地に創出された多彩な緑が良好な景観を生みだし、地域に新たな息吹や価値を付加している好例である。個々のディテールも十分検討されており、手堅く良質な空間が生み出されている。明確で解りやすいプレゼンテーションも高く評価された。